

境港における海の道を活用した 経済交流と自治体協力

「日韓露定期フェリー航路」と「クルーズ客船誘致」の取組から

「境港」の位置
鳥取県と島根県にまたがる
山陰の中心部

境港

島根県 SHIMANE

鳥取県 TOTTORI

2018. 1. 31
境港管理組合事務局長
吉川 寿明 1

時代を超えた対岸との交流 ～境港～

境港は古代から
大陸との交流の拠点

朝鮮半島製の鉄器



妻木晩田遺跡 (日本最大の弥生時代遺跡)



荒神谷遺跡

銅鐸と銅矛



日韓友好交流公園「風の丘」

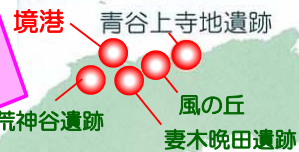


日韓交流記念碑

友情の鐘

1819年、江原道を出航した韓国商船が嵐で難破し赤碓沖に漂着。鳥取藩は、船長以下12名を保護し、手厚くもてなして長崎まで送り届け一行は無事帰国

交流



朝鮮半島との交流



青谷上寺地遺跡

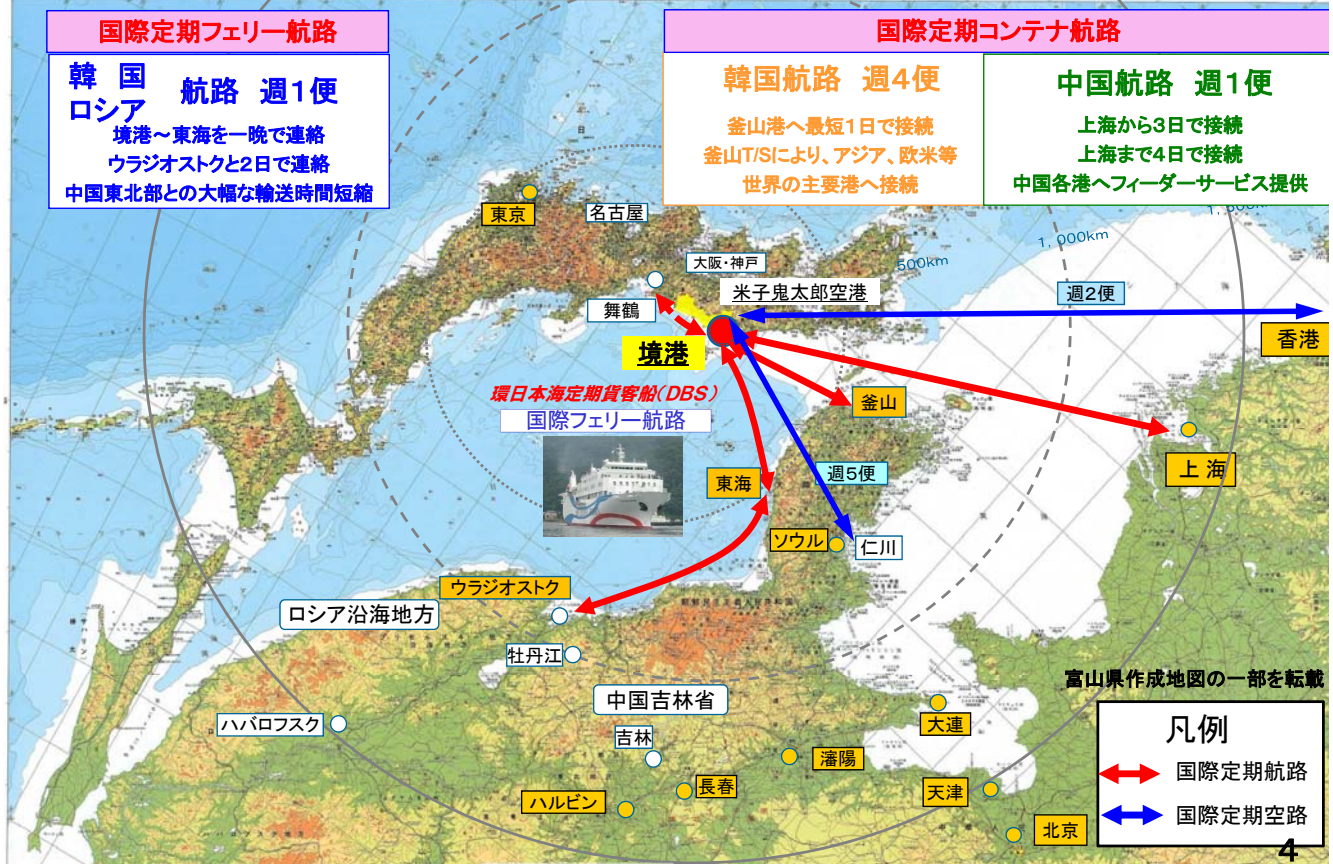
今に伝える交流の証 (船団を描いた板)



「境港」の全景と周辺地域



境港の国際定期航路



北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット

1994年より、鳥取県・韓国江原道・中国吉林省・ロシア沿海地方を構成員に、毎年もちまわり開催（2000年、モンゴル中央県参加）。

これまで、経済協議会・北東アジア地方政府環境保護機関実務者協議会・大学教授協議会・マスコミ代表者会議を設立。新規航路の開設、DBS航路及び米子ソウル便の利用促進に対する相互協力の合意等、各分野の相互連携・協力の契機となっている。



第22回地方政府サミット（2017年4月、鳥取県倉吉市開催）の共同宣言文で合意された主な取組

▶ 観光・経済交流に向けた取組

- ・定期貨客船、貨物船等を利用した新たな交通網の構築・促進
- ・オリンピック開催などを契機とした各地域間の観光情報の相互発信

▶ 防災力・復興に向けた取組

- ・鳥取県中部地震の経験を踏まえ、各地域防災力を高める方策の検討
- ・安心・安全な地域づくりに向けた地域間の情報交換の場の設置

▶ 交流基盤の拡大・促進に向けた取組

- ・文化、教育、福祉、科学、環境、農業分野の交流促進
- ・更なる青少年交流・民間交流の活性化

テーマ：ゆるぎない絆で新時代を拓く
～災害復興、経済発展、観光振興～



5

北東アジアを結ぶ国際定期フェリー

シベリア鉄道
モスクワ、ヨーロッパへ

中国東北部へ

ソウル首都圏へ

ウラジオストク

2009年6月29日就航

(19時間)

三大都市圏や、山陽・四国・九州一円からも、旅客・貨物を誘致！

鳥取県境港 舞鶴

東海

平昌

東京

(14時間)

2017年4月境港乗降客20万人突破
2017年11月境港年間乗降客数3万人突破

【運航日程スケジュール】 ※舞鶴は貨物のみ取扱

＜船舶の名称＞ イースタンドリーム号
 ＜船舶の諸元＞ ■総トン数 14,000トン級
 ■旅客定員 約480名
 ■貨物積載 約130TEU
 ＜主な船内設備＞ コンビニエンスストア、免税店、レストランなど
 ＜運航会社＞ DBSクルーズフェリー(株)〔本社：韓国東海市〕

区分	月	火	水	木	金	土	日
入港	14:00 ウツノ ストク			11:00 東海	9:00 境港 (21:00) (舞鶴)	(17:00) (境港)	9:30 東海
出港			14:00 ウツノ ストク	17:30 東海	(13:00) (境港)	(9:00) (舞鶴)	19:00 境港



DBS航路の開設と日韓露地方政府による協調支援

■DBS航路のあゆみ

年月日	主な出来事
07.10.31	鳥取県境港市で第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットを開催。境港に寄港する新たな航路の開設に取り組むことで参加国が合意
07.11	韓国の運航関係者より境港への機構計画。事業への協力と支援の要請
07.12.18	DBSクルーズフェリー(株)設立
08.02.21	韓国政府より運航免許が交付される
08.04.10	日韓知事会議の際に李明博大統領に航路開設への韓国政府の支援を求めた
08.05.09	環日本海経済活動促進協議会が設立。経済交流の活性化に向け、官民挙げての協力体制を整備
09.02.13	境港昭和北岸壁に国際旅客ターミナルが完成
09.02.21-24	境港～東海間の試験運航を実施
09.04.17	日本法人「DBS CRUISE FERRY JAPAN」設立
09.06.29	正式就航(境港には6.30に初寄港)
10.09～	境港寄港を週2航次から週1航次に変更
14.07.5	5周年記念セレモニー開催(境港)
15.07～	舞鶴港の貨物取扱開始
17.04.21	境港利用者20万人達成記念セレモニー

■日韓露地方政府による協調支援

- ・DBSクルーズフェリー就航に際し、初動支援として、日韓地方政府(江原道、東海市、鳥取県及び境港市など中海市長会)が協調した運航支援等を実施。
- ・また、寄港地である境港、東海港、ウラジオストク港において、接岸料等の減免も実施。
- ・その他に各地方政府毎に旅客、貨物の利用促進策を展開。

7

環日本海圏航路就航に伴う効果

✓ 訪日外国人客の増加

- ・2017年には約1万6千人の外国人客がDBSで来県
 - ・県内への経済効果は7.0億円(試算)
 - ・累計では世界64カ国の22万人以上が境港を利用
- ⇒ 主な訪問先: 水木ロード、鳥取砂丘、白壁土蔵群、大山、松江城、フォーゲルP



訪日外国人客

✓ 境港発着の貨物増加とプレゼンス向上

- ・2017年は北海道から九州、海外の約100社が利用
- ・航路全体(日韓露)の貨物輸送量は約19万トン(累計)
- ・日韓露を結ぶ唯一の航路であり、境港のプレゼンスの向上に貢献

【利用企業の声】

「日露の定期航路はDBSと稚内～サハリンコルサコフ航路(夏季、旅客のみ)。ほかにもあるが、貨物を輸出する場合、「何月何日に届ける」と言わないといけない。これが唯一言えるのがDBSとハートランド」

「DBSの利点は、コンテナにもバラ積み貨物にも対応し、年間を通じて定期運航していること。何かあった時にDBSは荷主の立場で交渉してくれる。ロシアに事務所があることが非常に心強い」

✓ 県内企業の海外取引を後押し

- ・就航以来、県内企業が水産品や中古農業機械、雑貨、農産物、原木、食品などの輸出入で航路を利用

【海外取引の主な事例】

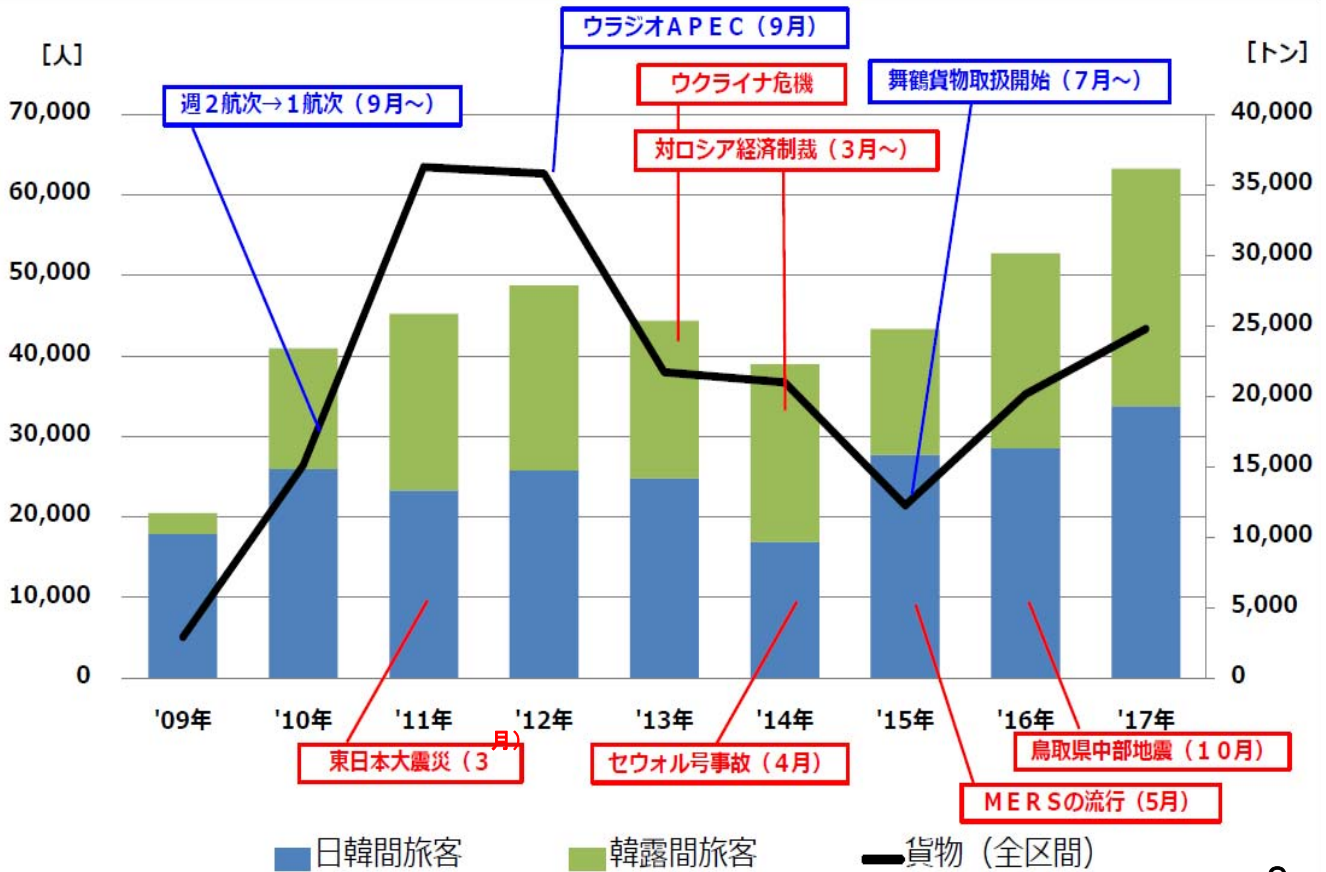
江原産パブリカの輸入('10年～)、韓国向けの原木輸出('14年～)
韓国向けの県内産アイスクリームの輸出('14年～)



原木輸出

8

環日本海圏航路の旅客及び貨物の推移



鳥取県のロシア極東地域との経済交流

鳥取県とロシア極東地域との交流経緯

●ロシア極東地域との友好交流の契機

- ・1991年10月、鳥取・島根両県知事を団長とした友好交流団をロシア沿海地方に派遣したことがロシア極東地域との友好交流の始まり。
- ・2010年11月、来日中のハバロフスク知事が来県し、共同声明により、ハバロフスク地方との友好交流を開始した。
- ・2016年、沿海地方との友好交流25周年を祝い、知事を団長とした交流団を両地域が派遣し、更なる協力に向けた文書に署名した。

●DBSクルーズフェリーの就航

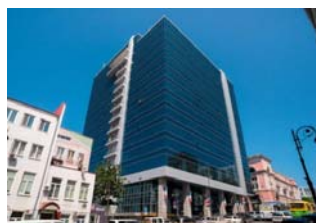
- ・2009年6月末に鳥取県境港、韓国東海、沿海地方ウラジオストクを結ぶ国際定期貨客船「DBSクルーズフェリー」が就航。

●鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンターの開設

- ・2011年5月～、ウラジオストク市内に鳥取県のロシア交流の拠点として鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンターを開設した。現在は、ロシア極東地域で日露の経済プロジェクトを進める北海道総合商社が運営を受託。



環日本海定期貨客船(DBS)



ウラジオストクビジネスセンター

【鳥取県の交流地域】

◆ロシア沿海地方

交流覚書 1991年10月
交流協定 2010年5月



◆ロシアハバロフスク地方

共同声明 2010年11月



●2017年第3回東方経済フォーラムに参加し、鳥取県の対ロシアの取組とDBS航路をアピール



シュヴァロフ・ロシア連邦
第一副首相との面談



レビク・実業ロシア会長と面談

環境改善に向けたロシア極東地域との協力

◆環境分野を中心としたロシアビジネス案件の推進

●鳥取県と沿海地方は、環境分野を含む有望ビジネス案件で協力覚書を締結 (2017.4.10)

・鳥取県と沿海地方は、2017年4月鳥取県で実施した平井知事と沿海地方知事との会談の機会を捉えて、両知事及び両地域の企業による経済協力に関する以下の覚書4件を締結し、民間企業同士の協力を推進している。

- 廃棄物処理分野における事業可能性の検証に関する覚書 (三光：境港市)
- 使用済み紙おむつの処理機器の販売に関する協力の覚書 (スーパーフェーズ：伯耆町)
- 廃ガラスの処理・再利用のための設備に関する協力の覚書 (鳥取再資源化研究所：北栄町)
- D B Sクルーズフェリー等を利用した旅行商品造成の協力のための覚書 (DBSジャパン：境港市)



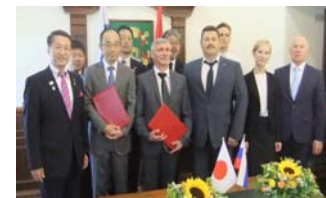
三光本社、施設を視察

●ウラジオストクにおける廃棄物処理施設の改善への協力覚書を締結 (2017.9.6)

・(株)三光 (境港市) とスペザポートNO1 (ウラジオストク市) は、排煙処理及び小型焼却炉のウラジオストクでの導入に向け、三光を視察し、機器設備に関する打ち合わせ等を実施 (2017年8月)。

・第3回東方経済フォーラムの機会に、平井知事の立会いの下、(株)三光及びウラジオストク支援「スペザポートNO1」の間で協力に関する覚書を締結 (2017年9月)

- 【内 容】 施設導入に向けた情報交換、現地視察等の協力についての覚書
- 【施 設】 ウラジオストク市営「スペザポートNO1」焼却場の排出有毒ガスの低減装置「スペザポートNO1」埋立場への小型焼却プラント設置



覚書締結

関西地域と鳥取県の連携によるロシアとの経済交流

関西広域連合との連携

・ロシア沿海地方経済団による貿易投資セミナーと商談会を関西広域連合と共催で開催 (2016年11月：大阪市内)

関西観光本部(広域連携DMO)との連携

・太平洋国際観光展へ関西観光本部と山陰インバウンド機構が出展 (2017年5月：ウラジオストク市内)

関西経済連合会との連携

・鳥取県ウラジオストクビジネスセンター所長を講師としてロシアビジネス学習会を関西経済連合会と共催で開催 (2017年6月：大阪市内)



貿易投資セミナー



商談会



太平洋観光展への出展

ロシアと関西との経済交流の窓口として、様々な団体と連携しロシアビジネス案件を創出!

鳥取県

ロシアビジネス案件
創出の関西地域の窓口

連携

関西広域連合
関西地方を中心とした最大の地方自治体

(社) 関西経済連合
関西地方最大の経済団体

関西観光本部
関西地方の広域DMO

GTI北東アジア地方協力委員会への参画

DBS航路を活用した北東アジア輸送ルートの確立を目指す

【第2回GTI地方協力委員会】
(2014年8月、鳥取県米子市)



海陸交通ルートの開発協力の強化やロジスティック委員会設立を盛り込んだ「鳥取宣言」を採択した。

【第3回GTI地方協力委員会】
(2016年8月、モンゴル・ドルノド県)



- ◎ロジスティック委員会の設立が全会一致で承認。
- ◎創設メンバーとして、鳥取県、江原道、吉林省、黒竜江省、遼寧省が参加を表明。

第6回GTI地方協力委員会
2018年鳥取県開催

【第1回ロジスティック委員会】

- 鳥取県が委員長を務め、DBS航路を利用した中露国境パイロット輸送の実施を決定。
- パイロット輸送は、GTIの全面的な協力の下で実施。輸送ルート上に存在する物流課題をGTIの枠組みの中で解決を図っていくことを確認。

DBS航路を利用したパイロット輸送の実施

日本とGTI地域の物流円滑化と輸送ルートの確立のため
DBS航路を活用したパイロット輸送を実施

【2016年パイロット輸送の概要】

鳥取県が主導して、GTIロジスティック小委員会の枠組によるパイロット輸送を実施

ルート：牡丹江→綏芬河→ウラジオストク→境港
貨物：木製品(20フィートコンテナ×2本)
時期：2016年10月

過去の試験輸送の取組

<ウラジオストク-綏芬河ルート>

- ① 境港⇄ウラジオストク港⇄綏芬河⇄長春(組立台ほか)
- ② 牡丹江→綏芬河→ウラジオストク港→境港(割り箸)
- ③ 境港→ウラジオストク港→綏芬河→延吉(食品)

<ウラジオストク-琿春ルート>

- ④ 境港→ウラジオストク港→琿春→延吉(食品)



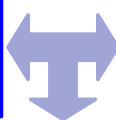
【GTIロジスティック小委員会の概要】

- 海陸一貫輸送の物流を専門とした委員会
- <参加メンバー>鳥取県、江原道、釜山広域市、吉林省、黒竜江省、遼寧省、内モンゴル自治区、ドルノド県

境港におけるクルーズ客船の誘致と受入

【境港の特徴】

- 中国・韓国に近い
- 観光資源が豊富
- 大型船もスムーズに入出港できる天然の良港



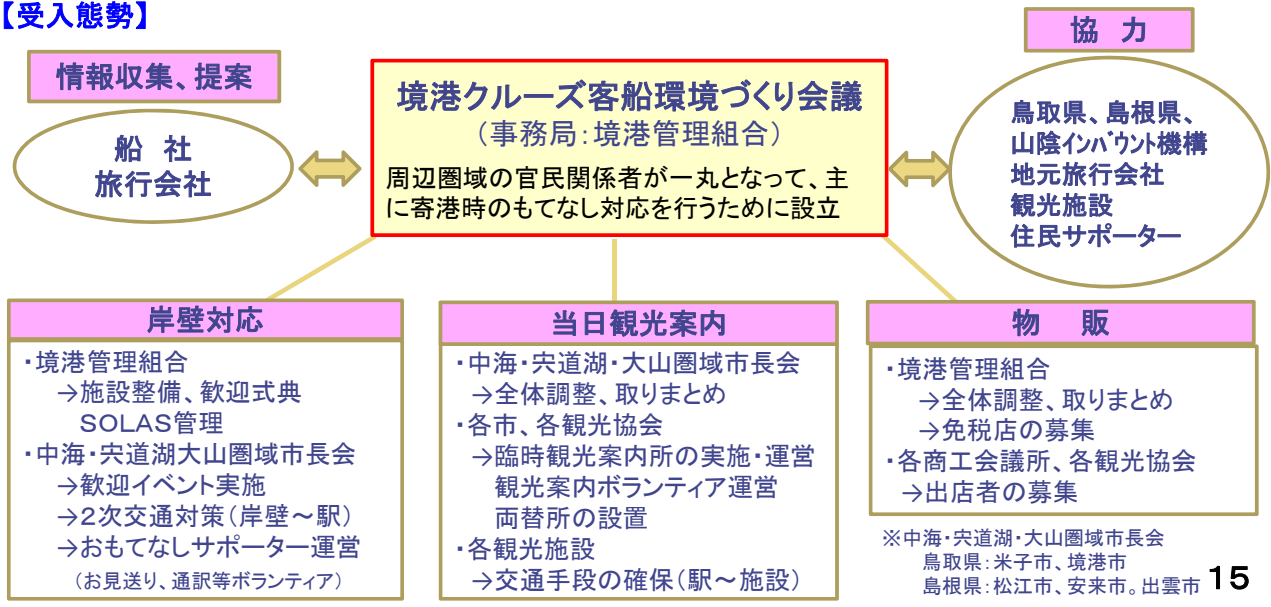
【クルーズの動向】

- 欧米クルーズ船社のアジア配船強化
- 日本政府のインバウンド対策の強化

【誘致ターゲット】 小型ラグジュアリーから超大型カジュアル船まで（欧米、邦船社及び旅行会社）

【誘致戦略】 他港連携、通年配船、船のタイプや乗客のニーズに応じた観光、消費のメニュー提案、個人旅行の環境整備、出入国手続のストレス軽減、おもてなしの充実、港湾整備推進 等

【受入態勢】



境港周辺の魅力ある豊富な観光資源

ラムサール条約登録 宍道湖・中海

松江城
ミシュラングリーンガイド ★

玉造温泉

隠岐

ゲゲゲの女房でおなじみ
水木しげるロード

はわい温泉

神話「因幡の白うさぎ」
白兎海岸

境港

1時間

2時間

3時間

大阪へ

広島へ

四国へ

皆生温泉

世界ジオパーク

山陰海岸ジオパーク

浦富海岸

日本最大 鳥取砂丘
ミシュラングリーンガイド ★★

世界唯一
砂の美術館

国立公園 隠岐

世界ジオパーク

日本庭園(足立美術館)
ミシュラングリーンガイド ★★★★★

国立公園 大山
ミシュラングリーンガイド ★

国宝 投入堂(三徳山)
ミシュラングリーンガイド ★★

三朝温泉

16

クルーズ客船誘致への連携した取組

<国外>

名称	活動内容	構成団体	設立時期 (加入時期)
アジアクルーズターミナル協会 (ACTA)	アジア地域における国際クルーズ市場の掘り起こしや加入港への誘致等を推進するため、フォーラム開催、各見本市での共同ブース出展、船社とのミーティングなどを実施。	ベナン港 (マレーシア)、クラン港クルーズセンター (マレーシア)、チェジュ港、基隆港、スービック港 (フィリピン)、上海呉淞口港、金沢港、神戸港、境港、シンガポールクルーズセンター (事務局)	2011.11 (")
アジアクルーズリーダーズネットワーク (ACLN)	情報交換の場としてフォーラム等を開催。	船社、研究機関、政府機関、港湾等 (日本参加港：博多港、横浜港、金沢港、境港)	2014.8 (")

<国内>

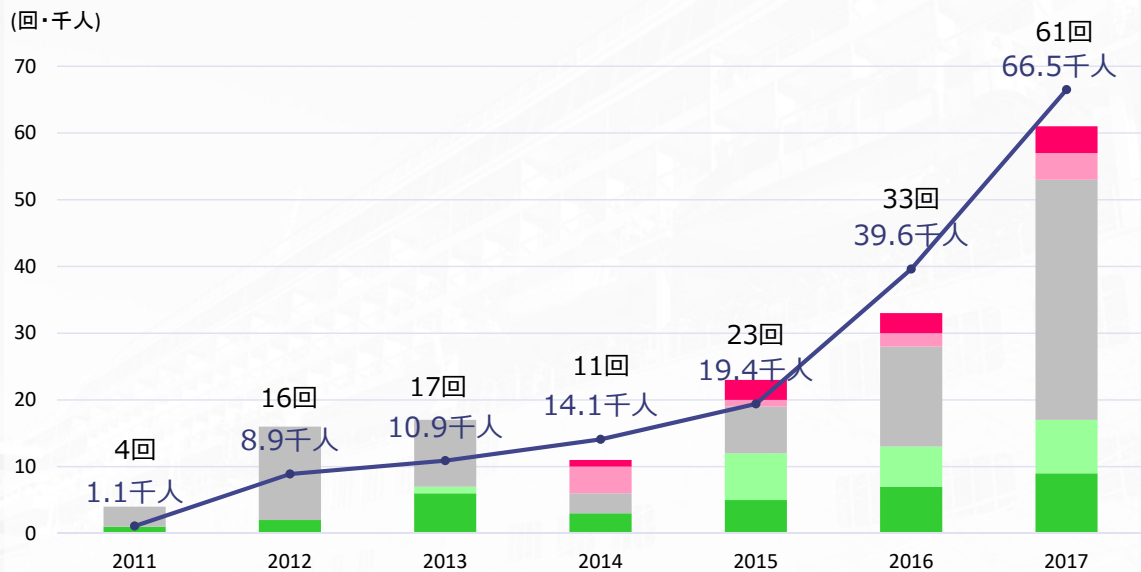
名称	活動内容	構成団体	設立時期 (加入時期)
全国クルーズ活性化会議	・クルーズ振興、誘致をはじめとしたクルーズの活性化方策に関して情報や問題点の共有を図る。 ・クルーズ活性化に資する、制度の改正・創設、財政支援等の要望をとりまとめ、関係機関へ提案を行う。 ・様々な機会を捉え、オールジャパンでのポートセールス・魅力の発信を実施する。	全国の港湾管理者及び関係自治体	2012.11 (")
全国クルーズ客船誘致連絡会	実務者レベルによる情報交換および勉強の場として定期的に会合を開催。	全国の港湾管理者及び関係自治体 (事務局：日本海事新聞社)	2001
環日本海クルーズ推進協議会	国際クルーズ船の誘致に向け、連携した情報発信、プロモーション等を実施。 ・クルーズ見本市に共同ブース出展 ・外国船幹部の招聘 ・共同パンフレットの作成 ・クルーズ見本市の公式ガイドブックへのPR広告掲載 ・協議会ウェブサイト ・国の機関 (CIQ) への要望活動	・港湾管理者 富山県、小樽市、京都府、秋田県、境港 ・その他所在市 等	2012.4 (2013.5) 17

クルーズ客船誘致への連携した取組

<国内(続き)>

名称	活動内容	構成団体	設立時期 (加入時期)
5港連携	北米や欧州の船社及び旅行関係者へ共同PRを実施。 ・北米や欧州での船社等向けセミナーの開催 ・クルーズ見本市に共同ブース出展	金沢港、青森港、神戸港、北九州港、境港	2015 (")
日韓5港湾都市連絡会	コスタクルーズによる日本海周遊クルーズを成功に導き、日本海側のクルーズ振興を図るため、広域連携した取り組みを実施。 ・日本海周遊クルーズへの均一サービスの提供 (有料シャトルバス、他港での観光情報提供、観光パンフレット作成など) ・国内外でのセミナー及びPRイベント開催による集客促進	博多港、舞鶴港、金沢港、釜山港、境港	2015.10 (")
がんばろう！日本五港物語	西日本の港の魅力を発信する取り組みを実施。 (セミナー開催、船社等との意見交換、他港でのPRブース設置など)	大阪港、高松港、高知港、別府港、境港	2011.9 (")
せとうちコートダジュール	瀬戸内海及びその周辺を巡るクルーズルートの魅力を日本人へPRするイベントを開催。	・港湾 大阪港、高松港、広島港、釜山港、舞鶴港、境港 ・船社及び旅行会社 オーバーシーズトラベル、ティーアンドティー・マークュリートラベル、両備ツアーズ	2017.1 (")

クルーズ客船の寄港数及び乗客数の推移



◆総トン数別 寄港数

区分	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
120,000t~				1	3	3	4
80,000~119,999t				4	1	2	4
20,000~79,999t	3	14	10	3	7	15	36
6,000~19,999t			1		7	6	8
~5,999t	1	2	6	3	5	7	9
計	4	16	17	11	23	33	61

2017年 クルーズ客船 寄港実績

区分 ※()内は、主な国籍	船名 ※[]内は、船毎の寄港数	寄港数	乗客数 (内、日本人) *1		
			乗客数	OPツアー参加率(概算) 及び 主な行き先 *2	自由行動
小型ラグジュアリー船 (欧米人)	カレドニア・スカイ(8) ロストラル(7) (初)プレーメン(1) シルバー・ディスカバラー(1) <u>4隻</u>	17回	2,543人 (53)	97% ①松江城 (69%) ②足立美術館 (60%) ③由志園 (25%)	3%
大型船 (日本人)	(初)コスタ・ネオロマンチカ(24) 飛鳥II(4) にっぽん丸(1) <u>3隻</u>	29回	25,982人 (21,996)	25% ①由志園 (43%) ②出雲大社 (40%) ③足立美術館 (27%)	75%
大型船 (中国人)	クワンタム・オブ・ザ・シーズ(2) オペーション・オブ・ザ・シーズ(1) (初)コスタ・セレーナ(1) (初)ルウェージャン・ジョイ(1) <u>4隻</u>	5回	21,101人 (4)	85% ①水木しげるロード (87%) ②松江城 (61%) ③免税店(永山免税店・夢みなとタワー内 臨時店舗) (47%)	15%
大型船 (韓国人)	コスタ・ヴィクトリア(6) <u>1隻</u>	6回	7,291人 (4)	60% ①松江城 (69%) ②永山免税店 (66%) ③水木しげるロード (65%)	40%
大型船 (多国籍)	ダイヤモンド・プリンセス(3) (初)オーシャン・ドリーム(1) <u>2隻</u>	4回	9,560人 (2,343)	40% ①水木しげるロード (48%) ②とっとり花回廊 (41%) ③お菓子の壽城 (36%)	60%
計 (14隻)		61回	66,477人 (24,400) ※36.7%	55% ①水木しげるロード (60%) ②松江城 (50%) ③由志園 (32%)	45%

*1…乗客数は速報値であり、今後、若干変更になることがあります。

*2…OPツアー参加者及び自由行動者の割合は、OPツアーバス台数を基に算出した概算値

(2017.11.27現在)

2017年クルーズの寄港による経済効果

<個人消費額>

乗客国籍	乗客人数	平均消費額 ※1	計
中国人	20,079人	18,025円	362百万円
その他	46,398人	11,269円	523百万円
計	66,477人	(参考:14,748円)	885百万円

※1…アンケートによる推計

出典：平成28年度景観に配慮したクルーズ船受入の先導的事業検討調査報告書(境港湾・空港整備事務所、一般財団法人みなと総合研究財団)

<その他、経済効果の具体例>

バス会社A	コスタ・ネオロマンチカ寄港時(計24回)に、有料シャトルバス(岸壁-境港駅間)を運行し増収となる。
バス会社B	クルーズに係る貸切バス代金は約700万円であり、インバウンド対応バスの5割程度を占める。
タクシー会社A	クルーズ寄港時の総売上は約690万円。(前年比 約1.7倍。1回当たりの単価は約5,500円。)
レンタカー会社A	クルーズ寄港時の総売上は約210万円。(約300台)
観光施設A	今年上半期は過去最高の入館者数を記録したが、これはクルーズ寄港増加による影響が大きい。
観光施設B	クルーズ乗客の入場者は約12,000人(昨年の倍以上)。うち約4割が食事あり。
宿泊施設A	OPツアーで昼食利用。その他に中国人の大型客船が寄港した際は、九州から前日入りする中国語ガイドが宿泊利用(100人程度/回)。

21

大型船から小型船の寄港に対応できる港

外港昭和北地区

小型クルーズ船
(~30,000GT)



外港1号岸壁
埠頭の長さ:370m 水深:-9.0m
外港2号岸壁
埠頭の長さ:260m 水深:-7.5m

外港中野地区

中型クルーズ船
(~110,000GT)
【平成29年秋頃完成予定】



中野1号岸壁
埠頭の長さ:240m 水深:-12.0m
(係留ドルフィン整備により、
中型クルーズ船受入が可能)



外港竹内南地区 【2020年3月末完成予定】

竹内南岸壁
埠頭の長さ:280m 水深:-10.0m
(係留ドルフィン整備により、
大型クルーズ船受入が可能)

外港昭和南地区

大型クルーズ船
(~160,000GT)



昭和南1号岸壁
埠頭の長さ:270m 水深:-13.0m
昭和南2号岸壁
埠頭の長さ:185m 水深:-10.5m
昭和南3号岸壁
埠頭の長さ:130m 水深:-7.5m

外港竹内地区

小型クルーズ船
(~20,000GT)



竹内3号岸壁
埠頭の長さ:100m 水深:-5.5m
竹内4号岸壁
埠頭の長さ:130m 水深:-7.5m



22

寄港事例1 アジア最大級『クワンタム・オブ・ザ・シーズ』



2015年7月に初寄港
 2016年は同クラスが計3回寄港
 2017年 " 計4回寄港予定

■寄港概要(一例)

入出港	入港 8:00 出港 17:00
運航コース	上海-釜山- 境港 -上海
乗客人数	約4,800名(主に中国人)
主なOPツアー	①出雲大社-水木しげるロード-免税店 ②松江城-由志園-水木しげるロード-免税店 ツアーバス計120台 ※ツアー参加率ほぼ100%
岸壁でのおもてなしイベント	(着岸中)臨時免税店、地元産品等物販 (出港時)関乃五本松節、ピアノ生演奏 ※その他サービス…無料シャトルバス(岸壁~境港駅)、外貨両替、観光案内



寄港事例2 日本海周遊定期クルーズ『コスタ・ネオロマンチカ』



2016年は7~9月に10回連続寄港
 2017年は4~10月に24回連続寄港予定
※2016年は同社のコスタ・ヴィクトリア

■寄港概要(一例)

入出港	入港 8:00 出港 17:00
運航コース	博多-舞鶴-金沢- 境港 -釜山-博多...
乗客人数	約700名(乗客の8割以上が日本人)
主なOPツアー	①出雲大社(自由行動) ツアーバス7台 ②足立美術館-由志園 ※OPツアー参加率2割 → 残りは自由行動
岸壁でのおもてなしイベント	(着岸中)地元産品等物販、お茶席 (出港時)がいな万灯、ピアノ生演奏 ※その他サービス…臨時路線バス(岸壁~境港駅。片道400円)、外貨両替、観光案内

■日本海周遊クルーズへの対応

- ・フリー客に対する周辺観光地への誘導(観光施設への臨時シャトルバス運行(駅~施設))
- ・寄港日毎に当日の観光情報チラシを作成し、配布
- ・協力施設によるクルーズ客への特別サービス提供(入場料割引、粗品プレゼントなど)
- ・岸壁でのレンタカー乗り捨てサービス など

■他の寄港地と連携した取組(5港連携)

- ・有料シャトルバスの運行
- ・各港で次港の観光情報を提供
- ・5港の観光情報をまとめたパンフレット発行
- ・国内外でセミナーやPRイベントを開催

クルーズ・オブ・ザ・イヤー2016特別賞受賞

寄港事例3 ラグジュアリー小型船 『ロストラル』



2016年・・・計6回寄港

2017年・・・計7回寄港

■寄港概要(一例)
※2016年は姉妹船のル・ソリアル

入出港	入港 7:00 出港 19:00
運航コース	大阪-玉野-広島-宇和島-鹿児島-長崎-釜山- 境港 -舞鶴
乗客人数	約220名(主に欧米)
主なOPツアー	①出雲大社-出雲古代歴史博物館-足立美術館 ②松江城-足立美術館-水木しげるロード ツアーバス6台 ※ツアー参加率ほぼ100%
岸壁でのおもてなしイベント	(入港時)鬼太郎着ぐるみ歓迎 (着岸中)墨字プレゼント (出港時)キッズダンス、ピアノ生演奏 ※その他サービス…外貨両替、観光案内



OPツアー出発



墨字プレゼント



地元園児による歓迎ダンス

25

寄港事例4 『ノルウェー جان・ジョイ』 2017年9月初寄港

運航ルート: 天津(9/20)→(洋上)→北九州→**境港**→(洋上)→上海(9/25) 5泊6日

寄港日	入港	出港	船名	船社	総トン数	全長	乗客定員
2017年 9月23日(土)	8:00	16:00	ノルウェー・ジャン・ジョイ	ノルウェー・ジャンクルーズライン(米)	167,725t	333.41m	3,883名

- ・平成29年6月から「ノルウェー・ジャン・ジョイ」による中国発着の北アジア周遊を開始したところ。
- ・中国人の好みと習わしを具現化した初めてのカスタム客船。(縁起のよい金や赤色を多く配色など)
- ・ノルウェー・ジャンクルーズラインのコンセプトは「フリースタイル・クルージング」。多様なレストランでの自由な選べる食事があり、服装もフォーマルを廃止するなど堅苦しくないスタイルが好評。

26

©ERINA

外港中野地区における大型クルーズ船の受入環境改善

2017年8月30日 寄港

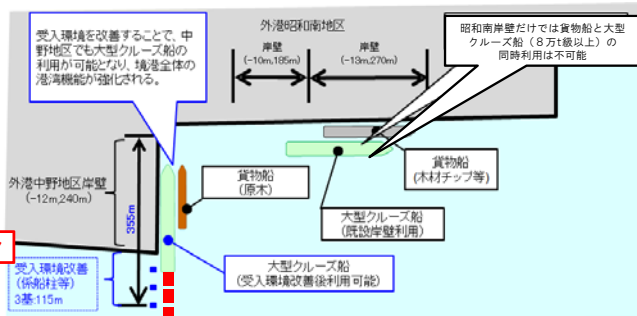


【直轄事業(受入環境改善事業)】

- 事業内容 係船柱3基、防舷材2基、連絡橋3基 等
- 対象船舶 11万トン級クルーズ船
- 事業期間 2018年3月完了見込み
 [2017.8.27] 暫定供用開始
 ⇒係船柱2基と防舷材2基の先行整備により、6万トン級クルーズ船の利用を開始(飛鳥II 寄港)
 [2017.8.30] 昭和南地区岸壁と併せ、5万t級2隻が同時着岸(コスタネオロマンチカ、飛鳥II 寄港)

既存施設を最大限活用「賢く使う」

○岸壁に係留施設を整備することで、岸壁長さより船長が大きい船舶(11万トン級クルーズ客船)の係留が可能となる。



「境港」発展の基盤：新貨客船ターミナル

我が国唯一の日・韓・ロを結ぶ国際定期貨客船(DBSクルーズフェリー)や国内RORO船などに対応した物流ネットワークの拠点として機能し、大型クルーズ客船も利用可能な外港竹内南地区貨客船ターミナル(整備中)

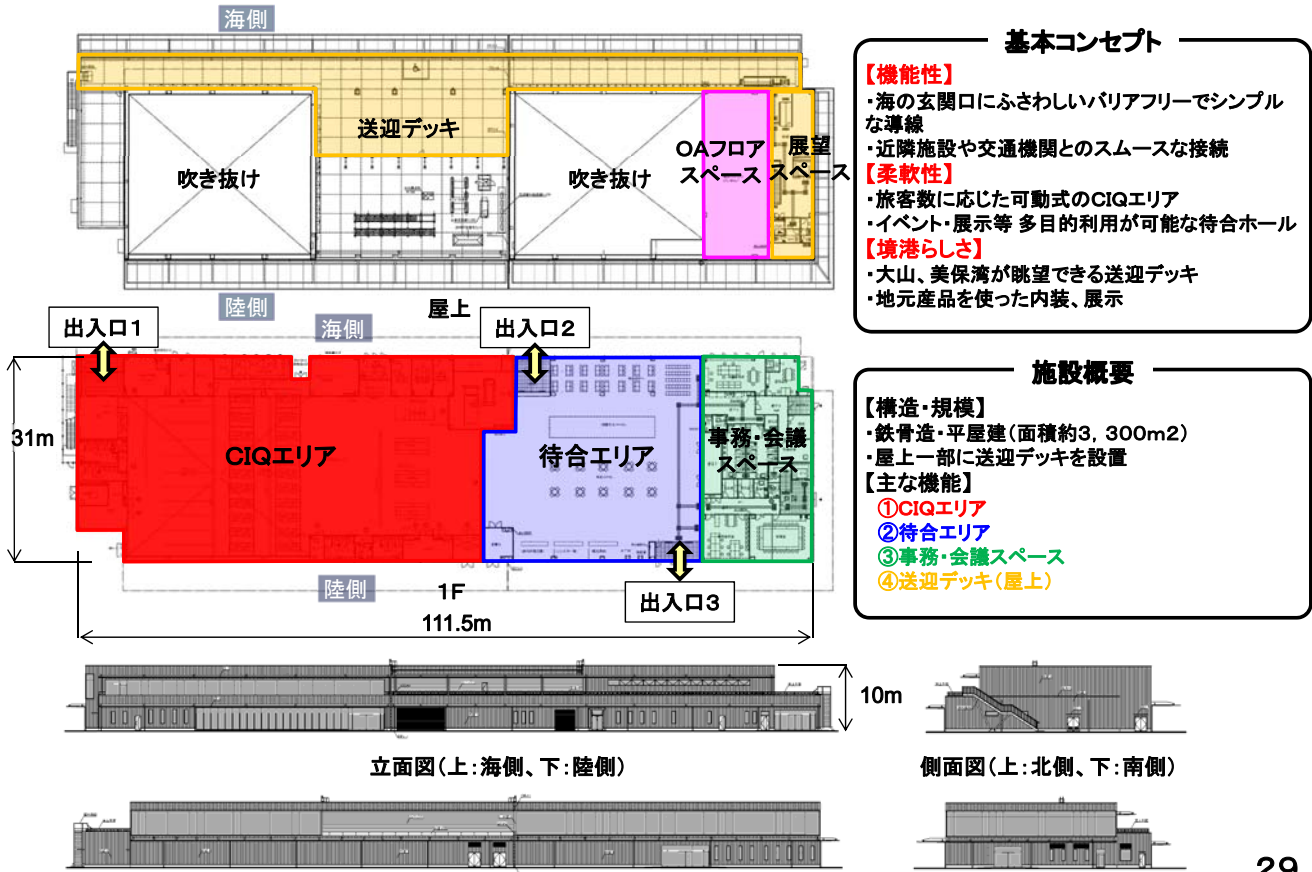
事業期間：2015～2019年度

- 貨客船ターミナル(上屋) 施設概要【構造・規模】
- ・鉄骨造・平屋建(面積約3,300m²)
- ・屋上一部に送迎デッキを設置

貨客船ターミナル イメージ(海側)



竹内南地区貨客船ターミナル上屋 実施設計図(案)



29

まとめ

◎北東アジアのビジネス促進のためには、地域間の相互理解と信頼関係を築き、地域の産業、資源、企業及び人材を活かした連携・協力により、国内外を問わず相互補完しながら各々の強みを出していくことが重要。

◎視点を海に向け、共通の財産である海を活用することが、人やモノの流れをダイナミックに変化させる可能性がある。

◎航路を海のインフラストラクチャーとして、官が定期航路を支え、民のビジネスや観光を興し発展させる基盤をつくるという考え方も必要。

◎航空機が目的地直行型とすれば、船舶は多地域経由型とも言える。多様な連携のネットワークを拡大、深化させることにより、各々の地域がWin-Winの関係になることができる。そこに自治体協力の大義があるのではないか。

ご静聴ありがとうございました。